

表紙のボクたち、ワタシたち



小山 ^{はるき} 温樹くん (8歳)
^{きら} 希来ちゃん (6歳)

^{なかさと} 室根町折壁字中里



【家族紹介】

お父さん：良弘さん / お母さん：美由紀さん / おじいさん：静男さん / おばあさん：信子さん

室根東小学校の2年生の温樹くんは、九九が得意。3年生からは「スポ少でサッカーをやりたい」と意気込みます。

希来ちゃんは浜横沢児童館の年長さん。おにごっこやブロックでよく遊んでいます。おばあちゃんに教わりながら編み物がんばり、シュシュを作りました。今度は「マフラーを作りたい」とはります。

2人ともとても素直でハキハキとしたきょうだいで、将来の成長が楽しみです。

家族の **宝** こどもたちへ

お父さんより

いつまでも
優しい心をもってほしい。

お母さんより

きょうだい仲良く
元気に育ってね!

おじいさんより

じょうぶで元気に
遊んでほしい。

おばあさんより

健康に育つよう
成長を楽しみにしています。



思い出の一枚

165

これは陸中門崎駅開業30周年記念式典の写真です。昭和30年7月26日に招待された荷主さんたち60人と仙台や盛岡の鉄道管理局からも参加し、盛大に催されました。私の家は、陸中門崎駅のそばにあり、駅の構内で仕事に携わっていたことから、思い出がたくさんあります。当時は、木材、薪炭、葉タバコ、米麦、家畜まで貨車で取引され大忙しでした。私は、一関市弥栄生まれですが、産業豆戦士として昭和16年に上京しました。空中戦を目的の当たりしに18年に帰省。陸中門崎駅のそばにあつた一関通運の事務員になりました。19年に日本通運陸中門崎営業所と社名が変わり、縁あってその所長さんの家に嫁ぎました。



金野 百合子さん(85)

川崎町門崎字渡戸

戦争の頃は、物資不足で泥棒が多く、荷物が盗まれ大変でした。昭和22年、23年のカザリン、アイオン台風の時は、駅に一尺五寸(45センチ)も水があり、倉庫の屋根で煮炊きしたこともあり。戦後、物資が出回り始めた頃の正月の初荷の時は、荷主さん達が馬車にみかん箱を積んできて、みかんをまいたりして賑やかでした。昭和25年、26年頃からは、夏の盆踊りが盛大に行われるようになり、それは現在まで続いています。あんなこともこんなことも陸中門崎駅の思い出です。